



よみがえれ。アノマロカリス

暑い。暑すぎる…。平成25年は7月に入っていきなりの猛暑が続いたと思ったら、天候不順でスッキリしない毎日。梅雨に逆戻りかと思いきや、今度はお盆前から連日の猛暑。いや酷暑？。人間の体温と同じような、あるいはそれ以上の気温で、体温調節がうまくいかないと熱中症に。そこで民間さんから頂いたノボリ旗でお客さんに注意喚起を。と言いながら、動物園もさすがに暑すぎると昼はお客さんもサッパリです。その分、夜の動物園は大盛況。

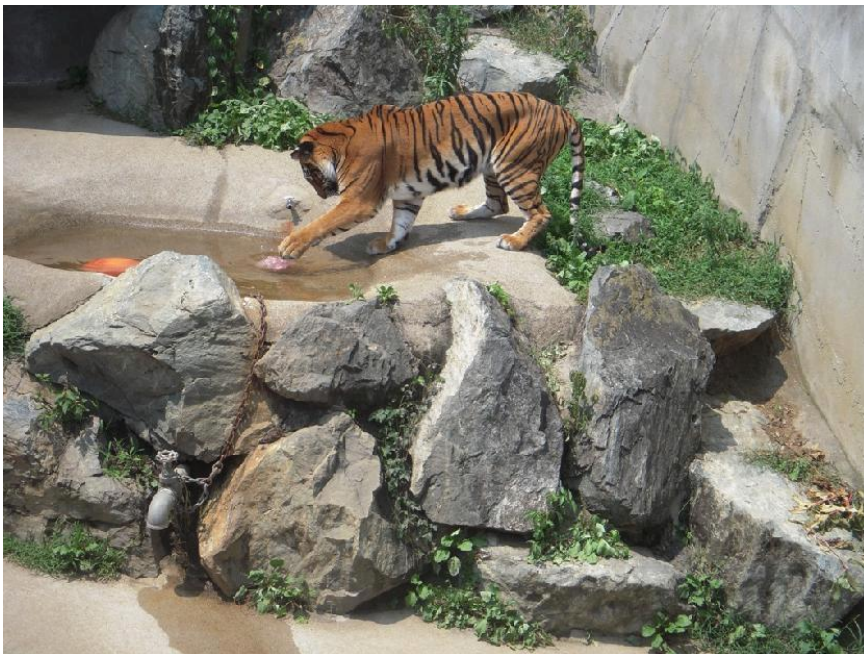


熱中症に気をつけましょう



夕闇せまる空にクモザル舞う

そんななか、動物たちもバテ気味なので少しでも暑さを忘れてもらおうと、飼育員たちは色々工夫しています。それぞれのブログにも紹介されると思うのでここでは簡単に。例えばトラ・ライオンへの氷漬けお肉のプレゼント。トラのサワちゃんは池に入った冷凍肉をおっかなびっくりつついたり、氷漬け肉に舌鼓をうったりと、見ていて微笑ましい度100%でお客様に喜ばれていました。また、アライグマの展示場には長い竹のフィーダー（餌箱）を入れて、新種「ブラサガリアライグマ」をとくにご堪能いただけます。



チベタイ、でもタベタイ



アライグマ・ぶらさがり健康法実践中

先日、郷土博物館の企画で小学生を対象とした「カンブリア紀のふしぎな生き物ペーパークラフト」が動物園の会議室を使って開催されました。カンブリア紀とは、今から約5億7000万年前から5億年前頃の時代を指し（異なる説もある）、その地層が日本最古の地層としてここかみね動物園を含む多賀山地で最近確認されました。このエポックメイキングな出来事にちなみ、その時代に登場した代表的な生物「アノマロカリス」をペーパークラフトで再現しようという夏休みのワークショップです。

人事異動で動物園に来てからというもの、動物たちを見て、接していると色々な興味がわいてきます。その最たるものは、こうした動物たちはどのように誕生したのだろうか、というものでした。考えていくと、私たち人間も含む動物の進化に思い至ります。そして進化の逆コースをたどると必ずカンブリア紀にたどり着きます。それ以前にも原始的な生物はいたのですが、この時代に、三葉虫などの節足動物や軟体動物など一気に多種多様な生き物たちが海の中で誕生しました。いわゆる生命のビッグバン「カンブリア爆発」です。

この時代に現在につながるすべての動物門が出現したと言われています。代表的な化石はカナダのバージェス頁岩（けつがん）層から発見されました。ちなみに、頁岩とは、粘土や泥土が薄く水平に積もった堆積岩のことで、今話題のシェールガスはこの岩層からでる天然ガスのことです。



真剣な表情のこどもたち

進化とは長い年月をかけてゆっくりと進むものですが、この爆発、あまりにも多種多様な生き物が一気に登場したため、かのダーウィン先生も「カンブリア紀の多くの動物種の出現は私にもうまく説明できない」とされています。太古の海の中ではどんなことが起こっていたのでしょうか。

アノマロカリスはエビのようなシャコのような形の節足動物で、体長60センチメートル。中には1メートルから2メートルになるのもいたそうです。こうなるともはやエビではない。寿司にしたら何人前？想像するだけでもワクワクするものがあります。アノマロカリスを始めカンブリア紀の生き物はそのほとんどが絶滅しましたが、生き残った種のいくつかが現在につながる種の系統へと引き継がれていきました。

いずれにしても、カンブリア紀に登場し、その時代捕食者の頂点に君臨していたというアノマロカリス。化石ではカナダ以外に中国などからも出ていますので、もしかするとカンブリア紀の地層が発見されたこの辺にもウヨウヨいたのかもしれない。ワークショップにはちょっとしか顔を出せませんでした。子供たちの表情は真剣そのものでした。不器用な私も教材を頂き、カッターや糊と悪戦苦闘しながら作ってみました。太古に絶滅したカンブリア紀を代表するアノマロカリス、今、隔世の時を隔てて子供たちの心の中によみがりました。



アノマロカリス…Mr. 不器用「生江」作

参考文献

「進化論と生物の謎がよーくわかる本」夏緑著

「ニュートン別冊・生命の誕生と進化の38億年」株式会社ニュートンプレス

「どうぶつのくに」連載中の「あっかみね動物園だ！」

近々VOL. 5公開予定

よかったらこちらからどうぞ [どうぶつのくに](#)（新しいウインドウが開きます）

2013年8月13日

過去の一覧

[令和6年](#)

[令和5年](#)

[令和4年](#)

[令和3年](#)